

本プロジェクトの意義

平成17年8月下旬のある日、文部科学省高等教育局専門教育課から一通のメールが企画調査室に飛び込んできた。[教員養成GP]選定の知らせである。これは晴天の霹靂とはい過ぎだが、瞠目すべき快挙ではある。このことについてその中味を公開しなければ、と考え、今までに種々の情報が開陳されてはいるがプロジェクトの意義・内容等について述べることにする。

標記のごとき名称のもと、2年にわたる教育実習パイロット計画は、従来の教育実習(J型)、教育実習プロジェクト(K型)の後に実施される。名称にあるように「島嶼部一いわゆる小規模校」地において宿泊しつつの教育実習を旨とする。これこそが教員養成審議会答申の真骨頂[教職に対する愛着・誇り・一体感]の醸成にもっとも適する教育実習の形ではないかと判断した。なぜなら教育実習生が児童・保護者たちとその地の自然・文化・歴史など同じ空気を吸い、生活のレベルをも共有することにより自ずと知識等の教育にも供することとなる。そこに[教職への愛着・誇り・一体感]が育まれるのではないかと、プロジェクトは主張した。まさに答申の真髓をここにみ、本学発達教育学部の目指すところ[人間力・社会力の養成]の萌芽もここに置いたのである。

教育実習はどこで？

そう、島嶼部一いわゆる小規模校での教育実習になります。現在のJ型(母校教育実習)でも小規模校での教育実習に携わっている人もいます。しかし、このプロジェクトで実施する教育実習K型は、J型とは大きく異なっています。それは、生活にあります。J型は、自宅(学生は実家といっています)に生活の基盤をおきますが、K型は、見知らない地でホームステイのたぐい、自活教育実習に従事します。

どんな教育実習を？

自活、そうです自炊しての教育実習をするのです。J型は自宅からの通学ですし、生活の基本的なところは、家族が担います。しかし、K型は、そうはゆきません。教育実習地で自炊の買いものなどをしつつの生活を基本とします。実習地の人々、子どもたち、保護者とも頻りに自然な交流がなされます。そこに学校という知的生産の場とは、かなり違った場が出現します。この場こそが大事な教育の基盤だと思えます。

するのですか？

そういう意味では、見知らぬ大地での教育実習です。J型は、会う人々はみんな実習生を知っていますし、また実習生もわかりです。K型は、例えばですがまさに四面楚歌です。そこで人間関係を形成しながらの教育実習です。よほど俗的にいえば腹をすえないといや腹をくくらないと出来ない相談です。だからこそK型は効果があると考えます。生半可な精神では、頓挫してしまいます。

文部科学省の考え(教員養成審議会答申)と

平成17度、文部科学省は、「大学・大学院における教員養成推進プログラム」という補助金事業をたちあげました。なぜでしょうか。それは、この少子化社会の中で呻吟している保護者の懊悩に応えるには、あるいはこの国の将来を憂え、教育を担う教員こそが至宝である子どもたちをわが国の国是に導く指導者と認定しているのでしょうか。きっと文部科学省は、教育を担う教員の資質の向上を念願しているに違いありません。そうでなければこのように大きな予算を計上するはずはない、と思います。

だからこそ教員の資質の一端を[教職への愛着・誇り・一体感]なる重要な語彙で表現しているのです。J型では、真の教員養成は？ といった一抹の不安が(教員養成に携わる責任者に)存在するのかもしれませんが、どのような方法で教員を養成したらいいのか、日夜悩んでいる方々は、本校のプロジェクトに一定の評価をくださいました。このような方法がいいのかもしれない、やってみて下さい、との断案です。本プロジェクトが教員養成に有効な方法を提供できるかどうかは、まさに霧のなかです。

しかし、本学も[人間力・社会力の養成]といったテーゼを掲げています。これら(文部科学省と本学)二つの言葉に魂を入れなければ、大きな責任感にとられてます。

本学(発達教育学部)のテーゼとの相乗効果!

POWER OF EDUCATION